

山形県と中国との各種交流の拡大をめざして — 山形県ハルビン事務所での活動報告 —

株式会社荘内銀行 海外業務部
アシスタントマネージャー 榎 正道

1. はじめに

2013年8月から2016年7月までの3年間（当初1年間はハルビン市内の東北林業大学にて語学研修）、山形県が中国黒龍江省ハルビン市に設置している「山形県ハルビン事務所」に派遣され業務を行ってきた。ここでは、3年間のハルビン駐在生活を通して、事務所にて行った業務を紹介したいと思う。

2. 黒龍江省の全体像

2-1. 概要

まずは、黒龍江省と省都であるハルビン市の概要を紹介したいと思う。黒龍江省は遼寧省、吉林省とともに中国の東北地方と言われており、その中でも中国最北に位置する省で、北はアムール川を挟んでロシアと国境を接している。人口は3,812万人（2015年）、省の面積は47.3万km²と省1つだけで日本よりも大きい面積を誇る。その中で省都ハルビン市は省中心部に位置する人口約1,000万人の大都市である。

冬季の寒さは厳しく、マイナス30度を超える日がしばしば見られる。その寒さを生かし、毎年1～2月に開催されるハルビン氷祭りは世界三大氷祭りと言われるほど有名で、国内外から2カ月だけで120万人以上の観光客が訪れる。一方で、夏季は30度を超える日が続くなど、夏季と冬季で寒暖差の大きい都市である。しかし、夏季は乾燥した気候ということもあり気温ほどの暑さを感じられないため、最近では中国人の間で避暑地として人気がある。

その他、日本人にとっては伊藤博文が安重根に暗殺された地としても有名である。今でもハルビン駅には暗殺された場所が分かるように目印が置いてあり、一時期、日本でも話題になった安重根記念館が設置されている。

2-2. 人的特徴

ハルビン人（東北人）の性格としては、忍耐強くて裏表がないと言われており、お酒が好きで、一度心を許すと非常に義理堅いのも特徴だ。お酒の席などで仲



ハルビン氷祭り

が良くなった現地友人には駐在生活中に助けてもらったことが数多くある。女性は昔からロシア系の血が入っており、身長が高くキレイな人が多いと言われている。また、普通語（北京語）と言われる中国語の発音がキレイな事が有名で、アナウンサーなどはハルビン出身者が多い。そのため、外国人が中国語を勉強するには非常に良い環境である。さらに、教育熱心で、地理的に日本から近いため、日本への関心も高く、日本語教育のレベルが高いのも特徴である。駐在生活中は日本語を勉強している大学生と接する機会が多かったが、発音など日本語能力のレベルが高い人が多く見られた。

2-3. 主要産業

主要産業は、1950年代には中国経済のけん引役を担っていた設備製造、石油精製、エネルギーなどの重工業である。特に石油精製ではハルビン市の北に位置する大慶市に油田を有しており、中国国内第1位の採掘量である。しかし、長く続いた国有企業主体の計画経済体質の下で設備等が老朽化しており、1990年代の改革開放経済政策の導入以降、上海、広東を中心とした沿海地区に比べ経済発展が遅れているのが現状だ。

また、重工業の他に黒龍江省は中国最大の農業省でもあり、中国の重要な食糧生産基地と言われるほど、大豆、小麦、トウモロコシ、米等が豊富に生産されて

いる。表1をご覧ください。GDPの産業別構成比率を見ても黒龍江省は中国国内でも第一次産業（農林水産業）の比率が高いことがわかる。さらに、食の安全にも力を入れており、绿色食品（汚染のない環境で生産された高品質で栄養のある食品を証明するマークとして1991年に作られた中国初の品質証明商標）製造には省をあげて力を入れている。その他、ロシアと国境を接しているため、中国の対ロシア貿易の重要都市とされており、貿易相手国は輸出入ともにロシアがトップである。

2-4. 黒龍江省と日本、日系企業の関係

黒龍江省では山形県（1993年）の他に新潟県（1983年）、北海道（1986年）とそれぞれ友好都市を締結している。また、ハルビン市では新潟市、旭川市が友好都市を締結している。

在留邦人は中国の他都市と比べ非常に少なく、在瀋陽日本国総領事館の発表によると、2014年の在留邦人数は黒龍江省で174人（内ハルビン市122人）。同じ東北地区の大連市は5,872人、在留邦人数が最も多い上海市は約43,000人であり、それらと比べるといかに少ないかわかる。

同様に同総領事館の発表によれば、日系企業数は黒龍江省で46社（内ハルビン市41社）でハルビン市に多くが集まっている。主な黒龍江省内の日系企業は表2をご覧ください。山形県からは1社進出している。日系企業では古くから製造業関係が進出している中、2016年には黒龍江省政府の全面協力の下、長谷川ホールディングス(株)が日本式介護の提供とのことで進出している。また、表3をご覧ください。中国に進出している日系企業の多くが年間10%程度上昇する人件費の高騰で苦勞している中、2015年に帝人フロンティア(株)は、黒龍江省は他地区に比べ、まだ比較的人件費が安いとの事で進出している。

3. 山形県と黒龍江省の関係

山形県は戦前、満蒙開拓団として17,000人以上を送り出したことなどから、昔から中国東北部とは深いつながりを持っていた。1992年8月には、黒龍江省のハルビンから松花江、黒龍江、アムール川、間宮海峡、日本海を経て山形県酒田港に至る「東方水上シルクロード」が開設され、飼料用トウモロコシの輸入、中古農機具の輸出など経済交流も活発となっていった。こうした機運の高まりのもと、1993年8月に友好省県の盟約を締結し、以来、経済交流をはじめ、学術、文化、医療などさまざまな分野で交流を深めてきた。山形県と黒龍江省の他に山形県内の市町村と黒龍江省の市・県なども独自に友好都市を締結し交流を行っている（表4）。

さらに、2011年10月には黒龍江省ハルビン市に日本の自治体としては初となる「山形県ハルビン事務所」を開設。①県産品の輸出振興、②観光誘客、③技術・学術・文化等交流促進の3つを柱とし、事務所を拠点として取り組んでいる。

表1 中国、黒龍江省比較

	中国	黒龍江省	
人口	13億6,782万人	3,812万人	
面積	960万km ²	47.3万km ²	
首都（省都）	北京市	ハルビン市	
GDP（億元）	676,708	15,083	
※円換算	1,286兆円	287兆円	
実質GDP成長率（%）	6.9	5.7	
1人当たりGDP（元）	49,351	39,462	
※円換算	93.7万円	75万円	
国内総生産（GDP）の産業別構成比率（%）	第一次産業（農林水産業）	9.0	17.5
	第二次産業（鉱業、製造業、建設業）	40.5	31.8
	第三次産業（その他）	50.5	50.7

出典：2015年「中国統計年鑑」、黒龍江省統計局
※レートは2015年12月時の1元＝19円使用

表2 主な黒龍江省日系進出企業

海外法人名	日本法人名	進出先	事業内容
黒龍江里仁舎科技咨詢有限公司	(株)荘内測量設計舎	ハルビン	測量、化学分析
伊藤忠(大連)有限公司哈爾濱分公司	伊藤忠商事(株)	ハルビン	商社
哈爾濱東安汽車發動機製造有限公司	三菱自動車工業(株)	ハルビン	エンジン、トランスミッション製造
哈電日立電力設備技術開発有限公司	日立三菱水力(株)	ハルビン	水力発電機、タービン設計
黒龍江樂活医養家園	長谷川ホールディングス(株)	ハルビン	介護事業
黒龍江三特紡績服装産業開発有限公司	帝人フロンティア(株)	海倫	アパレル（スーツなど）
牡丹江欧地希溶接機有限公司	(株)ダイヘン	牡丹江	機械製造

※日系企業46社中県内企業2社（2014年10月現在）
※日系企業数は瀋陽領事館発行「東北三省における在留邦人数及び日系企業数の推移」より抜粋

表3 都市部の従業員の平均賃金及び指数

年地区	平均賃金 (人民元)	平均賃金指数 (前年=100)
1995	5,348	118.9
1996	5,980	111.8
1997	6,444	107.8
1998	7,446	115.5
1999	8,319	111.7
2000	9,333	112.2
2001	10,834	116.1
2002	12,373	114.2
2003	13,969	112.9
2004	15,920	114.0
2005	18,200	114.3
2006	20,856	114.6
2007	24,721	118.5
2008	28,898	116.9
2009	32,244	111.6
2010	36,539	113.3
2011	41,799	114.4
2012	46,769	111.9
2013	51,483	110.1
2014	56,360	109.5
北京	102,268	110.0
天津	72,773	107.4
河北	45,114	108.7
遼寧	48,190	105.9
吉林	46,516	108.6
黒龍江	44,036	107.9
上海	100,251	110.3
江蘇	60,867	106.5
浙江	61,572	108.8
河南	42,179	110.1
広東	59,481	111.6
重慶	55,588	111.2
四川	52,555	109.6
雲南	46,101	108.6

出典：2015年「中国統計年鑑」

表4 県内と黒龍江省友好都市

黒龍江省側都市	県内都市	締結年
黒龍江省	山形県	1993(平成5)年～
尚志市	鶴岡市(旧温海町)	2000(平成12)年～
方正県	大石田町	1990(平成2)年～
双鴨山市	長井市	1992(平成4)年～

また、ハルビン事務所開設5周年となる2016年7月には、吉村知事を団長とした日中友好県民のつばさ訪中団約50名が出席のもと、ハルビンにて記念レセプションを開催。記念レセプションに先立ち吉村知事を中心とした県民のつばさ代表団が黒龍江省の陸省長と会見を行い、「山形県も黒龍江省も同じ農業県のため、農林水産部門において力を入れ相互交流を深めていきたい」との要望を受けるなど、今後の両県省のさらなる交流促進を約束した。

4. 山形県ハルビン事務所の業務

4-1. 県産品の輸出振興

ここからはハルビン事務所ですら実際に行ってきた業務を3つの柱に沿って紹介したい。

まず、第一は県産品の輸出振興である。中国各地の商談会、展覧会へ出展したり、百貨店にて食品フェア等を実施している。また、黒龍江省の企業を山形県へ招聘しビジネスマッチングを実施したり、逆にハルビンにて県内企業と黒龍江省の企業のビジネスマッチングを実施している。この他、中国のバイヤーを山形県へ招聘し各県内企業へ訪問し商談なども行っている。

その中でも山形県が最も力を入れているのは毎年6月に開催されるハルビン国際経済貿易商談会である。この商談会は黒龍江省政府が主催者となり1990年から開催されており、毎年国内外から1,500社以上が出展し、20万人を超える買付業者や来場者が訪れる、黒龍江省で最も歴史が古く、規模の大きい国際貿易商談会である。

山形県では、1996年(第7回開催時)から出展企業を募集し山形県出展団として毎年参加しており、21回目の参加となった2016年には12社・団体が出展。これは、新潟県や北海道などが出展している日本ブースの中で最多の出展規模であった。



ハルビン商談会山形県出展団ブース

山形県のブースでは、日本酒、梅酒、しょうゆ・みそなどの調味料、つや姫などの食品販売の他に、けん玉、畳などの工芸品も販売。その他、水田圃場整備システムの展示、塩蔵山菜水煮用製剤、アクアリウムろ過材など多種多様な商品を出展した。アクアリウムろ過材を出展した企業はハルビン商談会での好感触を受け、中国向けの商品輸出等に向け手ごたえをつかみ、企業活動を行っている。

商談会と同じく力を入れている県産品プロモーションについては、ハルビンだけではなく、北京、天津、上海、香港など中国各地のスーパー、百貨店にて実施している。県産品の試飲や県産品の試食を行い知名度アップに努めている。さらに、ハルビン市内の日本料理店で山形県美食フェアを開催し、来店者などに県産酒などの普及を行った。フェアのかいもあり、現在はハルビン市内の比較的規模の大きな日本料理店などで県産日本酒を取り扱ってもらっている。また、ある日本料理店ではフェアの際に事務所でレシピを提供した芋煮(しょうゆ味)を販売したことをきっかけに、現在はレギュラーメニューとして提供し、いつでも食べることができる。

4-2. 観光誘客

ハルビン事務所の業務の第二は観光誘客である。こちらも中国各地の商談会、展覧会へ出展した際に県産品の紹介だけではなく、山形県への観光も併せてPRを行っている。また、北京の在中国日本国大使館本国などで開催される天皇誕生日イベントなどには毎年参加し、来場者への山形県への観光誘致に取り組んでいる。さらに、日本の大手旅行会社ならびに岩手県と手を組み北京の現地旅行者へ観光PRを行った。その他、ハルビンの現地スキークラブ向けには、毎年定例会にて蔵王スキー場を中心とした山形県の観光PRを行っている。そのかいもあり、北京やハルビンの現地旅行社では蔵王への観光ツアーを造成して中国人向けに販売し、2014年から2016年にかけて約300人が山形に宿泊している。

毎回イベント時に山形県の観光PRを行うと中国人からは中国と山形県を結ぶ直行便がないことを不便と感じる人が多く見られる。今後、中国人観光客のこれまで以上の増加が予想される中、直行便の就航がまだ難しい状況を考えると、今まで以上に2次交通の整備が必要と思われる。

4-3. 技術・学術・文化等の交流促進

ハルビン事務所の業務の第三は、技術・学術・文化等の交流促進である。まず、技術交流に関しては、国

際協力機構(JICA)技術協力事業を活用し、2013年度から2015年度までの3年間は大气汚染物質の分析技術の向上支援に取り組み、黒龍江省技術職員の山形県への研修受け入れや山形県からの専門職員派遣による技術指導を行うなどしてきた。また、医療分野の技術交流では、日本海総合病院が黒龍江省の医師や看護師を研修生として受け入れ技術指導を行っている。

次に学術・文化交流であるが、こちらは東北公益文科大学での中国人短期留学やハルビン市内の大学での日本人の短期留学などへの支援を実施している。また、ハルビン市内の大学では東北公益文科大学のPRも行っている。そのかいもあり、ハルビンからの東北公益文科大学への留学生が見られるようになった。

また、教育旅行を手がけるハルビン市の旅行社との関係強化により、2015年は167名、2016年は136名のハルビン市の小中学生が教育旅行で山形県を訪問したほか、2016年1月には、庄内町の中高校生等と音楽活動を通じた国際文化交流会を実施した。

最後に情報交流として、事務所ホームページや事務所の公式SNSを使い、山形県の情報や企業情報を現地人向けに発信している。特に山形大学の重粒子線治療の記事を載せた際には過去最高の閲覧数や質問が寄せられるなど関心の高さがうかがえ、今後の医療インバウンド事業の進展に期待が持てる結果となった。

5. 最後に — 駐在生活を終えて

昨今は日中政府間の関係が必ずしも良好とは言えないため、ネガティブな事件等が多く取りざたされている。また、景気減速に着目したニュース記事も多く見られる。しかし、人口13億人という巨大なビジネスマーケットは、引き続き魅力的な市場であり、多くのビジネスチャンスがあると考えられる。もとより、海外ビジネスにリスクは必然的に伴うものである。だが、ジェットロによる聞き取り調査では、リスクを理由に中国市場開拓をやめると答えた企業は見られず、逆に「リスクを認識しつつも、今後も中国の市場規模が大きく発展するチャンスが見込まれることから引き続き販売を強化していく」と答えた企業が多く見られたとのことだ。また、実際に中国で生活していると、一般の中国人にとって日本で報道されるほどの景気減速感は見られない。多くの駐在の日本人に聞いてもこれまでとあまり変わらないという声を多く聞く。

今後は3年間の駐在生活を生かし、魅力的な市場である中国に広がるビジネスチャンスを掴みそこねないように県内企業の皆さまのお手伝いに努めていきたい。